

# 特別分科会

## 特別第1分科会

### 「地球環境とPTA」

#### 今何を考え、

#### 何をなすべきか

はじめに金城俊夫岐阜大学学長の「環境汚染・野生動物からの訴え」と題する講演の後、パネルディスカッション方式で行われた。コーディネーター吉田克己(日本総合ビジネス専門学校校長)の進行により、パネリストとして小瀬洋喜(大垣女子短期大学学長)、井戸豊彦(岐阜赤十字病院名誉院長)、篠田雄介(シノタマ漢方代表取締役)3氏による意見交換を行った。

金城俊夫氏は、20世紀後半の科学技術の急速な発展は、利便と安楽をもたらしたが、反面、地球規模での環境破壊と汚染を引き起こしたと指摘された。この環境の悪化は生態系を攪乱し、その結果、単に人類ばかりでなくすべての動植物の生存をも脅かすことになり、特に環境ホルモンの動物に及ぼす影響を例に問題提起をされた。また私たちが、これ以上環境を悪化させず、野生動物たちとも共生できる素晴らしい生態系を次世代に引き継いでいくために、①物欲の追求から抑制へ、②「環境・共生・抑制」の思想と実践の2点を環境倫理学の視点から強調された。



問題意識の高さが、つい質問に

すべからず、学校やPTAの果たす役割は何か、などについて討議された。環境衛生の立場から、小瀬洋喜氏は、「21世紀をめざす子ども育成には、環境問題を解決するための資料・情報を与えるのが親の役割」、また医療の立場から井戸豊彦氏は人の健康との係わりについて、環境ホルモンの健康を阻害するのではなくオゾン層の破壊、温暖化現象、酸性雨と健康障害など具体例を挙げ説明された。続いて篠田雄介氏は、中・高校生と環境について話した時「家族から聞いた」という言葉が出てきたが家庭の中で、自然に環境問題の学習をしていることが分かった。心した。ブラジルでの環境サミットでは「アジェンダ21」が合言葉であったが、今後高校生には、「エコプラン21」とでも銘打って自覚を持たせると良いのでは、と提案された。続いて質疑応答がなされ、「発展途上国への環境ホルモン抑制の規制はどうすべきか」「物欲を抑え、物を大事にすることを高校生にどのように教えるか」など、活発に意見交換された。

### ●ひとこと●

今、問われている環境問題の中で、子どもたちに何を伝えたら良いかを考えた時、身近なりサイクルや省資源を実施したいと思う。

岐阜県 岐阜市立岐阜商業高校 長屋 秀樹

今日のパネリストの方々が言われた環境問題をいかに子供たちへ伝えるかが、私の残り少ない教員生活での課題だと考えています。

福岡県 小倉西高校 校長 西田 智

## スナツプコシクモヨシ



オープニングを飾る県立岐阜商業高校吹奏楽部

郡上おどり(全国三大民舞のひとつ)

## 特別第2分科会

### 「国際化社会とPTA」

#### グローバルな

#### 視野と感覚を!!

特別第二分科会は「国際化社会とPTA」をテーマに行われた。初めに、イビデン(株)相談役の多賀潤一郎氏による基調講演のあと、多賀氏を含む後藤悦男



本当の日本の個性とは

合雅子(長良川国際会議場コンベンションコーディネーター)、原田誠治(静岡新聞社編集局長)の4氏をパネリストとして活発な意見交換が行われ、有意義な分科会となった。

多賀氏の講演は、変化の激しい現代社会にあつては、企業が突然終焉を迎えることがあり、既存のものに固執して安んじていられない。時代の変化に対応できる実力と常に創業の精神で当てるべきだ。またその変化はグローバルな視点で捕らえるべきで、境界を意識しない世界の基準を念頭に活動すべきだといふ内容であった。

後藤氏は、自身の留学体験や高校生の国際交流の支援経験から、若い時の外国人との交流の重要性を強調した。河合氏は、「世界はひとつのメッセージを屏風にして提示され、社会の役に立つこと」を行動や判断の基準に据えることを家庭生活で教えるべきだ、自助努力、自主判断、自己責任の三つが大切だと話された。

会場からは、国際化は他人への思いやりであると考えたとの意見が出された。また、ホームステイによる交流後の交流についてアドバイスを求め意見も出された。

## 特別第3分科会

### 「高度情報化時代が作りだす教育環境について」

#### 多様な情報を的確に選択、処理、発信

特別第三分科会はテーマの通りインターネットを介し分科会内容を全世界に生中継した。岐阜県知事梶原拓氏の基調講演のあとパネルディスカッション方式で行われた。コーディネーター後藤忠彦(東海女子大学教授・文化情報メディア研究所長)の進行により、篠原滋子(現代情報研究所所長)、馬場祐次郎(文部省生涯学習局社会教育課課長補佐)、三輪宏道(岐阜新聞社監査役論説委員長)、寺嶋正三(中部学院大学短期大学部経営学教授兼中部学院大学総合研究センター副所長)5氏の意見発表、さらにTV会議システムを用いてティーン・カリンウッド氏(ユタ大学教授)がユタ州よりパネリストとして参加され、会場との意見交換が行われた。



情報化時代の真の情報は

梶原拓氏より「情報理論と教育」

責任の大切さを強調された。

21世紀における創造力の源としての——と題して基調講演が行われた。

また、各パネリストの方からは、各自の立場で、情報教育との係わりから、社会で必要とされる人材の育成、今後の教育改革への提言、ユタ州から高校TV教育の紹介もあった。

ものであり、利用者のモラルイとその情報をいかに捕え、判断理解し、表現するか、させるのかという今後の課題も提言された。

情報社会を担う人材育成のため、交流(異文化にふれる)・連帯(共通の目的を持つ)・創造を柱とした教育の提言をされ、特に個性とその

更に通信ネットワークについては大変優れたものであるが、無防備な

された。

### ●ひとこと●

情報化社会が身近であることを痛感。要・不要に係わらず発信、受信される情報に、個々が責任・道徳観を持つことの大切さも感じた。

神奈川県 横浜立野高校 黒川 ツヨ

急速に発達したハイテク社会に、PTAや学校はどのように生徒達と向き合えば、社会に必要とされる人間像を創りだせるかを考えさせられた。

富山県 伏木高校 土居 治

### ●ひとこと●

国際化は、今や避けては通れないのが現実。一部の人が担って来た国際交流をビッグバンし、心の開国を図る時期に来ている。

高知県 佐川高等学校 西森 勝仁

企業の現場のトップに立っている方の意見を聞いて、世界的視野を持って、自分の足で立っていける、そんな生き方を親も子もしたいと思いました。

神奈川県 横浜日野高校 長瀬 洋子